


# 平成25年度社会貢献プロジェクト 大学院生による大学と社会の学術交流の推進

つくば院生ネットワーク 

## 1. 事業の概要

本事業は、研究の最前線に立ち向かう大学院生らによって、筑波大学の特徴である学術研究の成果を社会へ発信し、地域社会と活発に学術交流を行える環境づくりを行うものです。具体的には、学園祭における、「院生プレゼンバトル」の開催、「学内研究企画広報」の実施、つくばエクスプレス駅構内で行う一般向けのサイエンスカフェ「駅前キャンパス」を開催致しました。

ポスター発表部門では、筑波大学への受験を控えた高校生やその保護者らが、研究の内容のみならず、学生生活に関する質問まで、院生と密に接する光景が見られました。また、つくば市内の研究所で働く研究者の方々からは、研究内容に関する鋭い指摘や助言を受ける発表者も多く見受けられました。



写真1 ポスター発表部門の様子

口頭発表部門では、最先端の研究内容を、パフォーマンスを交えながら分かりやすく発表し、会場から大きな反響がありました。閉会後に回収したアンケートでは、「毎年プレゼンバトルを楽しみにしている、来年度も是非やって欲しい」などの声が学外からも多く聞かれました。

## 2. 事業成果の概要

毎年約4万人の来場がある筑波大学学園祭を、本学と地域住民が接する最大のチャンスと位置づけ、我々つくば院生ネットワーク(TGN)は以下の活動を行いました。

「院生プレゼンバトル」：本企画では、研究の最前線で活躍する大学院生らが、自身の研究内容を一般の来場者に対しても分かりやすく発表します。そして、面白くて分かりやすいプレゼンに対して聴衆による投票を行います。発表者と聴衆の間の質疑応答も審査項目に含め、大学院生と地域社会の積極的な学術交流を促す企画です。

院生プレゼンバトルは、院生と少数の聴衆が面と向かって質疑応答が可能である「ポスター発表部門(写真1参照)」と、一度に多くの聴衆を相手にプレゼンを行う「口頭発表部門(写真2参照)」の二つの部門に分かれています。どちらの部門にも学内外から多くの来場者があり、院生らとの活発な議論が交わされました。



「学内研究企画広報」：本学学園祭には、院生プレゼンバトルのみならず、研究所公開から公開講座等まで様々な学術的な企画が存在します。しかしながら、これらの学内研究企画は、模擬店等の勢いの陰に隠れ、とりわけ学外からの来場者にとっては内容的にも物理的にも非常にアクセスしづらいことが例年問題視されてきました。そこで、我々TGNは学内研究企画のみに焦点を絞った「学内研究企画専用パンフレット(写真3参照)」を作成し、学園祭会場で配布しました。本パンフレットは、通常の学園祭パンフレットに比べて学内研究企画の説明がはるかに充実しており、本パンフレットを読み、興味を持った学内研究企画へ訪れる来場者が多く見受けられました。

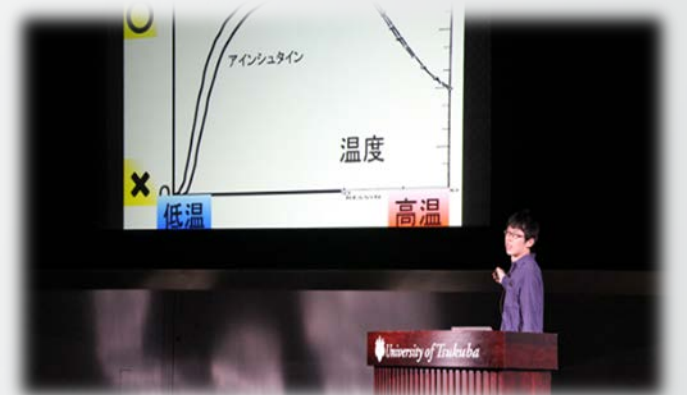


写真2 口頭発表部門の様子



写真3 学内研究企画専用パンフレット

「駅前キャンパス」：その他、本事業では、つくばエクスプレス(TX)つくば駅構内で一般向けのサイエンスカフェ、「駅前キャンパス(写真4参照)」を実施しました。本企画は、大学院生を含む若手研究者が、夏休みにつくば市を訪れる観光客を対象に、最先端の研究内容を分かりやすく発表するものです。本企画は、TXつくば駅の改札の目の前で開催されることが大きな特徴で、つくば市を訪れた観光客に「つくば=科学の街」を大きく印象付けることができました。来場者は、コーヒーを片手に気軽に参加することができ、当日は小学生からお年寄りまで、様々な年齢層の方々の来場がありました。彼らが最先端の研究発表を食い入るように見、積極的に質疑を投げかけていた光景が印象的でした。



駅前キャンパスのポスター

## 4. まとめ

本事業では、学園祭における「院生プレゼンバトル」、「学内研究企画広報」、およびTXつくば駅における「駅前キャンパス」という主に3つの企画を実施しました。いずれの企画も大きな成功を収め、我々大学院生を通じて、筑波大学での研究成果を地域社会へ還元してゆく環境を構築することができたと考えています。



写真4 駅前キャンパスの様子

本企画は、プレスリリースを行ったこともあり、開催前から多くのメディアに取り上げられ、結果として大きな注目を集めることができました。また、開催後に実施したアンケートでは、本企画を夏休みのみならず、定期的にも実施して欲しいとの声が多く寄せられました。以下に、掲載されたメディア情報を列挙します。

### <駅前キャンパス掲載メディア一覧>

- ・筑波大学 定例記者会見, 2013年7月25日
- ・常用新聞 朝刊, 2013年7月27日
- ・朝日新聞 朝刊, 2013年8月2日
- ・日本経済新聞 朝刊, 2013年8月3日
- ・茨城新聞 朝刊, 2013年8月6日
- ・ラチオつくば, 2013年8月6日
- ・日本経済新聞 朝刊, 2013年8月27日

## 5. 謝辞

これらの活動が、大変チャレンジングなものであるにもかかわらず、大きな成功を収めることができたのは、社会貢献プロジェクトによる資金援助があったからに他なりません。主たる業務が研究で、学生という立場にある我々大学院生は、問題意識や情熱は持っているとしても、それを実行に移す際、しばしば資金不足という問題に直面することがあります。この障壁を取り払い、熱意を実行に移す仕組みや環境を提供してくださった、つくば・地域連携推進室に厚くお礼申し上げます。